

山口市文学碑巡り No.6 (ホタル塚—吉井勇歌碑)

旧 9 号線 (現 204 号線) の吉敷川に架かる湯田大橋の袂に嘗て吉井勇の歌碑が建っていましたが、約半世紀振りに山口に帰ってその歌碑を尋ねたところ見当たらず、偶然、吉敷のコミュニティ紙に現在の所在場所を見つけ、早速尋ねてみました。新 9 号線吉敷下東の交差点から 435 号線を美祢方面に向かって進み、吉敷川に架かる良城橋の袂にその歌碑は移築されていました。昭和 30 年初夏、吉井勇が湯田温泉の山水園の主、中野仁義の招きに応じて山口に立ち寄り、湯田大橋に飛び交うホタルを見て、その幽玄さに“ホタル塚を建てたら如何か”と提案したとのことで、この年が、山口のホタルを天然記念物と定めて丁度 20 年目に当たり、その記念事業として彼の歌碑が建てられたと言うことです。歌碑裏面に昭和 30 年 6 月建立と刻んであります。吉井勇の短歌の詳しくは知りませんが、歌人としては耽美派に属し、大正期、松井須磨子の唄で流行したゴンドラの唄を作詞した人として、無粋な小生でも知る人物です。余談ですが彼の祖父吉井友實は戊辰戦争の折り薩摩軍砲兵隊を率いて長州軍と共に新政府軍として伏見で幕府軍と戦い、明治政府から伯爵に叙され、吉井家は太平洋戦争敗戦まで華族に列せられていました。

うつくしき 蛍の群れの かがやきを このうつし世の 光ともかな

歌碑と吉敷川・良城橋風景



(76 期 厚東一生)